

T21c

モザイク CCD カメラによる近傍銀河団観測 II

八木雅文 (東大理天文) 柏川伸成 (国立天文台) 関口真木 (国立天文台) 岡村定矩 (東大理天文)

我々はモザイク CCD カメラを用いて、近傍 ($z < 0.1$) の銀河団を R, B, (V) で多色撮像観測してきた。このデータを用い、4 銀河団を R バンドについて解析し、銀河団の形態別光度関数が銀河団ごとに異なっていたという結果を 95 年春の年会で柏川が発表した。この時、暗い側 (R \sim -18 mag) に見られる中心集中の高い (1/4 乗則的な光度分布の) 天体が何なのかが問題となっていた。この問題を解く手がかりの 1 つとして、形態とは独立の情報である色 (R-B) の情報を用いることが考えられる。

本年会では、B バンドの解析結果を新たに解析の進んだ R バンドの結果とも合わせ、形態 - 色 - 光度空間での銀河の分布の様子を示す。